

2-3 日本語教育学

研究・教育活動の概要と特色

本専攻分野では、日本語教育学の教育・研究範囲を日本社会や文化、日本人の意識などまでも含めた広い文脈で捉えている。以下に教育・研究活動の概要とその特色を概括する。

第1の特色は、学部・大学院それぞれに、学生自身がコースデザインから日本語の授業担当、報告書作成までを行う教育実習が用意されていることである。

第2の特色は、つねに日本語教育の現場を意識していることである。日本語学研究や語用論研究などについては、理論をどう現場に応用するかを意識して研究している。また、日本語教師養成に関わる研究では、実習における実習生の態度変容などの研究を行っている。現場への意識から、教材開発に関する研究にも積極的に取り組んできている。

第3の特色は、日本語が用いられる社会的背景を意識して、社会学など日本語教育学以外の専門を持つ教員が所属していることである。現代日本人の家族や職業に関する実証的研究を行っている。

第4の特色は、質問紙法、統計分析やプレゼンテーションのスキルなどについての実践的な講義も学部・大学院で提供していることである。

組織

1 教員数(2011年9月末現在)

教授：1

准教授：2

助教：1

教授：才田いずみ

准教授：名嶋義直

准教授：田中重人

助教：呉正培

2 在学生数（2011年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
29	5	11	4	1

3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
07	10	5	1
08	11	3	2
09	9	4	0
10	7	4	0
11	0	1	0
計	37	17	3

* 2011年度は、9月末までの数字

過去5年間の組織としての研究・教育活動（2007～2011年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
07	1	0	1
08	1	0	1
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
計	2	0	2

* 2011年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

呉 正培、2007年度、『韓国人大学生の日本人イメージに関する社会心理学的研究 日本語学習の影響を中心に 』

審査委員：教授・鈴木淳子（主査）、教授・才田いずみ、教授・大淵憲一、准教授・名嶋義直、准教授・助川泰彦、講師・田中重人

楊 帆、2008年度、『日本語授業における誤用訂正に関する研究 中国の大学教室の訂正実態と授業参加者の意識 』

審査委員：教授・才田いずみ（主査）、教授・鈴木淳子、教授・助川泰彦、准教授・名嶋義直、准教授・甲田直美、講師・田中重人

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
07	0	0	0	1	1
08	1	0	0	0	1
09	0	3	1	1	5
10	0	2	0	0	2
11	1	0	0	0	1
計	2	5	1	2	10

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
07	0	0	1	0	1
08	1	0	0	2	3
09	1	0	2	0	3
10	1	3	3	0	7
11	0	3	1	0	4
計	3	6	7	2	18

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

梅木俊輔 「ターン管理と発話連鎖への期待に関する考察 韓日接触場面におけ

る情報要求場面を中心に」『言語科学論集』第13号，東北大学大学院文学研究科言語科学専攻，2009年．

梅木俊輔 「エコ型聞き返しの発話機能と発話末イントネーションとの関係」『日本語／日本語教育研究』日本語／日本語教育研究会，2巻，2011年．

エミ インダー プリヤンティ 「在日インドネシア人研修生の実態と問題に関する調査報告 宮城県の研修生を中心に」『言語科学論集』第14号，東北大学大学院文学研究科言語科学専攻，2010年．

呉 正培 「日本語学習者の日本人イメージにみられる特徴とその形成要因 韓国の大学における学習者と非学習者の比較」『世界の日本語教育』第18号，国際交流基金，2008年．

トムソン木下千尋・福井なぎさ・島崎 薫 「初級コースにおけるアクティブラーニングの実践 インターアクションテストの考察」（共同）『学習者主体の日本語教育 オーストラリアの実践研究』，ココ出版，2009年．

島崎 薫 「学習コミュニティの形成を目指した取り組みとその考察」『言語科学論集』第13号，東北大学大学院文学研究科言語科学専攻，2009年．

島崎 薫 「日本語学習者の「日本語使用者」としてのインターネットを通じたリソース使用に関する調査」『言語科学論集』第14号，東北大学大学院文学研究科言語科学専攻，2010年．

松本一見 「日本語学習者の聴解学習に関する予備的調査 東北大学留学生のインタビューをもとに」『言語科学論集』第13号，東北大学大学院文学研究科言語科学専攻，2009年．

(2) 口頭発表

梅木俊輔 「相づち使用とターン管理に関する一考察 接触場面の場合」，第7回日本語教育研究集会，名古屋大学，2009年8月4日．

梅木俊輔 「聞き返しに関する考察 对人的作用を中心に」，第2回松島日本語教育研究集会，松島町中央公民館，2010年7月19日．

梅木俊輔 「エコ型聞き返しに関する考察- 発話機能と発話末拍の上昇調の関係を中心に-」，第8回日本語教育研究集会，名古屋大学，2010年8月9日．

梅木俊輔 「感動詞と「と」との共起に関する一考察 CSJ自由対話を資料として」，第9回日本語教育研究集会，名古屋大学，2011年8月8日．

エミ インダー プリヤンティ 「在日インドネシア人研修生と日本人の職場でのコミュニケーション問題」，第1回松島日本語教育研究集会，松島町中央公

民館，2009年7月20日。

呉 正培 「質的調査による日本人ステレオタイプの内容の検討 韓国人大学生の場合」，韓国日本学会第74回国際学術大会，建国大学校，2007年2月10日。

金 祉諱 「中級動詞コロケーションの特徴」，2011年度日本語教育学会秋季大会，米子コンベンションセンター，2011年10月9日。

佐々木奈月 「軽度知的障がいを持つ日系アルゼンチン人生徒への算数の学習支援に向けて 加減算の文章題におけるつまずきの分析」，2011年度異文化間教育学会第32回大会，お茶の水女子大学，2011年6月11日。

佐藤雅子・鈴木衣今子 「ベトナム・ホーチミン市における日本語教育専門家・日本語教育指導助手と現地日本語教師との関係 教師協同のためのビリーフス・チェックシート試案」(共同)，日本語教育学会実践研究フォーラム，早稲田大学東伏見キャンパス，2007年8月4日。

島崎 薫 「日本語教育における学習環境への着目 アクティブラーニングの提案」，2009年度日本語教育国際研究大会，ニュー・サウスウェルズ大学(シドニー)，2009年7月15日。

島崎 薫 「情報サービスリソースとしてのインターネットの役割に関する一考察 ニューサウスウェルズ大学日本語学習者インタビューを通して」，第2回松島日本語教育研究集会，松島町中央公民館，2010年7月19日。

島崎 薫 「言語教育における学習者オートノミーの構成要素の整理 異分野におけるオートノミーとの比較を通して」，2010年度日本語教育国際研究大会，台北(台湾)，2010年7月31日。

島崎 薫・エミ インダー プリヤンティ・佐々木 奈月 「短期日本語プログラムでのブログ活用に関する一考察 東北大学日本語教育夏季実習を例に」，2010 PC conference，東北大学，2010年8月8日。

土屋千尋・松岡洋子・内海由美子・松本一子・齋藤昭子・関裕子・齋藤ひろみ 「外国人散在地域における多文化背景をもつ子どもへの教育・支援の展開 岩手・山形地域でのとりくみからみえてきたこと」，第31回異文化間教育学会，奈良教育大学，2010年6月13日。

土屋千尋・内海由美子・齋藤昭子・関 裕子 「『大人のネットワーク』は『子どものセーフティネット』—外国人散在地域における子どもの教育支援ハンドブック作成過程からの考察—」，2011年度異文化間教育学会第32回大会，お茶の水女子大学，2011年6月12日。

楊 惠婷 「日本語学習者の終助詞に対する理解について 『よ』『ね』『よね』
の場合」, 第二回松島日本語教室まつり, 松島中央公民館, 2009年3月1
日.

楊 帆 「誤用訂正に対する意識の学年間比較 中国の大学の日本語教室の場合
」, 2008年日本語教育国際研究大会, 釜山外国語大学校(韓国), 2008年
7月13日.

若狭 修平 「発話アバターによるインタラクティブな日本語自主学習教材の試作
研究」, 2010 PC conference, 東北大学, 2010年8月8日.

3 大学院生・学部生等の受賞状況

ヤマモト・ルシア・エミコ(専門研究員)「国際労働移動が家族関係にもたら
す影響 性別役割の研究を中心に」平成19年度東北大学男女共同参画奨励
賞「沢柳賞」プロジェクト部門 特別賞 2007年11月

4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2007年度 学部 計5名 カリフォルニア大学サンタバーバラ校(アメリカ合衆
国), ニュー・サウスウェルズ大学(オーストラリア), ルンド大学(スウ
エーデン)

2009年度 大学院 計1名 ニュー・サウスウェルズ大学(オーストラリア)

2010年度 大学院 計1名 ニュー・サウスウェルズ大学(オーストラリア)

5-2 留学生の受け入れ状況(学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
07	3	2	5
08	7	4	11
09	5	5	10
10	4	5	9
11	7	4	11

計	26	22	46
---	----	----	----

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
07	3	0	3
08	2	0	2
09	3	0	3
10	2	0	2
11	4	0	4
計	14	0	14

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

舟森久美子 ノボシビルスク国立大学外国語学部 日本語教師 2007年度
 栗原通世 国士舘大学 21世紀アジア学部 講師 2008年度
 楊 帆 山形大学国際センター 講師 2008年度
 高橋かつ子 函館大学 非常勤講師 2010年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

日本語教師 6名, 青年海外協力隊日本語教師 5名, 国際交流基金海外派遣
 日本語教育専門家 1名, 保育園・中学校・高等学校教諭各 1名, システム
 エンジニア 2名, ジャーナリスト 2名, 出版社・製鉄会社社員各 1名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

釜慶大学校（韓国）教授	Jang Yun-seok	2007年7月28日～8月3日
釜慶大学校（韓国）教授	金 永賛	2008年7月26日～8月1日
釜慶大学校（韓国）教授	呉 正煥	2010年7月25日～7月28日
同済大学（中国）教授	劉 曉芳	2011年7月27日～7月29日

1 0 刊行物

『言語科学論集』（専門分野の論集），国語学・言語学と共同，1997年より毎年刊行

1 1 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2007年度

日本理論心理学会第53回大会事務局

日本語教育方法研究会事務局

2008年度

日本語教育方法研究会事務局

日本語教育講演会「音声教育の方法」，2008年9月23日.

2009年度

日本語教育方法研究会事務局

2010年度

日本語教育講演会「言語の教育からコミュニケーションの教育へ」，2010年11月12日.

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2008年度

日本語教育研究会「音声教育の方法」講演会，2008年9月23日.

2010年度

日本語教育研究会「言語の教育からコミュニケーションの教育へ」講演会，2010年11月12日.

1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

2006-2007年度の教授2名、准教授1名、講師1名、助教1名の計5名という学部
の教育・研究体制が、2009年度の鈴木淳子教授の他大学転出により大きく崩れ、
教授1名、准教授2名、助教1名という4名体制になって厳しい状況が続いている。
しかし、そんな中でも呉正培助教が、学生指導の面で大いに活躍してくれていることと、
人的リソースが減ったことへの対応策として研究室運営のあり方を見直し、
学生・院生へのオリエンテーションを充実させて情報量を増やしたこと、指導体制
に院生の希望を取り入れたことなどから、マイナスは何とか最小限に食い止めること
ができていないのではないかと考えている。大学院は、2007年度から協力教員が1

名に減ったものの、助川泰彦教授（本務は国際交流センター）とも緊密な連携をとっており、質的にも量的にも学部よりは充実した指導体制が取れている。

また、研究生希望者などの大学院生予備軍への対応を、時期で区切って、ある程度合理化するなど、教員の学外者対応の負担軽減も試みている。

日本語教育学研究室では、開設以来一貫して教育・研究環境の整備に力を入れている。約 20 台のパーソナルコンピュータを設置し、学生の研究・教育用に開放している。各コンピュータには最新の統計・ワープロ・表計算・プレゼンテーション（プロジェクター使用）・データベース・データ解析などのソフトがインストールされ、調査・実験データの分析、論文執筆や発表練習に十分な環境が整備されている。また、授業では、文献データベースサイトに関する情報を積極的に提供し、利用目的に即したサイト選択が効率よくできるよう指導している。この他、研究室内の資料室には約 3,000 部の専門書と約 2,000 部の研究雑誌・紀要・報告書等を蔵している。また、音声研究用の機材・分析装置や日本語の実習授業用の授業観察装置やビデオカメラ、ビデオデッキ等も、互換性に留意しつつ機種を更新を行い、学生の便宜を図っている。

学生からの相談にはきめ細かく応じるようにしており、スタッフ全員が卒業論文の個別指導などの対応を随時柔軟に行っている。卒業論文については、年間 4 回程度の構想発表・進捗状況報告の機会を設け、円滑に論文作成が進むよう配慮しているほか、2009 年度からは夏休み直前に 3 名の教員と学生 1 名の 4 人で進捗状況と今後の進め方について話し合う個別面談を実施し、研究支援と指導を充実させた。

大学院教育においても、各学生の研究相談に随時個別に対応している。週 1 回の課題研究の時間には、全大学院生に順番に各自の研究内容について発表させている。発表時間を制限して短時間に内容を要領よくまとめる訓練を行うほか、指定討論者や質疑セッションの司会なども順に務めさせ、学会大会や国際会議等での発表を意識させるようにしている。教員とは、課題研究での発表後に個別面談をするように指導しており、複数の教員と面談することにより、さまざまな視点からの指導や助言が得られるようにしている。学部生同様、修士 2 年次の大学院生に対しても、当該学生と全指導教員で論文の進捗状況を踏まえた面談を実施している。

研究指導以外には、講演会やシンポジウムを開催して院生に刺激を与えること、また、院生自身にも学会発表等を奨励することなどを通して、日本語教育学の研究成果を蓄積することに努めている。

日本語教育学は、現場に立つことが重要性を持つ領域であるので、実習をはじめ実地調査や見学など、学生・院生に現場を踏む機会を与えることにも努力している。

2006年度は魅力ある大学院教育イニシアティブプログラムを活用し、大学院生の国内外での実地見学・調査・研究・学会発表を積極的に行わせた。同プログラムによって、ほとんどのスタッフが海外の教育拠点を訪れて現地の日本語教育学専門家との交流を深め、卒業生・修了生の新たな就職可能性を拓くとともに、大学院での実習の対象者を複数の国から受け入れるルートを拡大した。これにより、海外在住の卒業生・修了生とのネットワークをより密なものにすることもできた。2007年度は予算的な裏付けはなくなったものの、こうして培ったネットワークを活用し、実習の対象者を例年の韓国に加え、タイからも2名得ることができた。2009年度は(独)国際交流基金の海外日本語インターンプログラム業務提携により、2月と3月に学部学生と大学院生計15名をタイのサイアム大学、韓国の忠南大学校、インドネシアのマナド大学に派遣した。このプログラムについては2010年度および2011年度も申請が採択され、2010年度には2月にタイ、2月から3月にかけて韓国に学生を派遣した。2011年度は東日本大震災の影響で毎年夏に受け入れてきた韓国・釜慶大学校からの学生の受け入れがなかったため、8月にタイのサイアム大学でのインターンプログラムを実施し、学部生・大学院生を合わせて6名派遣した。韓国・忠南大学校へは前年度同様2月末から3月にかけて派遣する予定である。また、これらに加えて、アメリカ合衆国ペンシルベニア州のディキンソン大学へも同時期に最大5名の学生を派遣する予定で国際交流基金への派遣申請を行なっている。

スタッフは論文や著書などの出版、研究発表、講演などの研究活動を活発に行うだけでなく、学会役員、ジャーナル編集委員、大会開催委員などを担当して学会にも貢献している。これに加えて、田中重人准教授は法学研究科の21世紀COEプログラム運営委員、グローバルCOEプログラム運営委員として活躍している。鈴木淳子教授も在職中、東北大学文学研究科の21世紀COEプログラム運営委員、グローバルCOEプログラム運営幹事を務めた。

教員の研究活動(2007~2011年度)

1 教員による論文発表等

1-1 論文

才田いずみ・井口寧・高橋亜紀子・小河原義朗 「遠隔日本語学習とテレビ会議」
(共同) Satoru Shinagawa (ed.) *CASTEL-J in Hawaii 2007 Proceedings*. CD-ROM.
pp. 67-70. 2007.8.

才田いずみ「実習生の授業イメージと教師役割観」藤原雅憲・西村よしみ・堀恵子・内山潤・才田いずみ(編)『大学における日本語教育の構築と展開 大坪一

- 夫教授古稀記念論文集』，ひつじ書房，pp.199-219. 2007.2.
- 加藤由香里・才田いずみ 「上級日本語読解コンテンツの開発 専門教育との連携を志向する eラーニング」(共同)，日本教育工学会第 23 回大会講演論文集，pp. 857-858，2007. 9.
- 才田いずみ「日本語教育実習生についての実習生の受けとめ」『日本語教育学世界大会 2008《第 7 回日本語教育国際研究大会》予稿集』第 3 分冊，pp. 7-10，2008. 7.
- 才田いずみ「日本語教育学実習と実習生の授業時の意識 日本人学生と留学生を比較して」内藤哲雄・井上孝代・伊藤武彦・岸太一(編)『PAC 分析研究・実践集 1』ナカニシヤ出版. pp.53-69. 2008.11.
- Izumi SAITA, A. Takahashi, Y. Ogawara, Y. Inoguchi, and M. Kurihara. “Multimedia and Learner Awareness-raising in regard to Japanese Prosody”(共同) *Proceedings of the Third CLS International Conference CLaSIC2008*. CD-ROM. pp.481-486. 2008.12.
- 高橋亜紀子・才田いずみ・小河原義朗・井口寧「システムエンジニアを対象とした遠隔日本語学習コースウェアの開発」(共同)，日本教育工学会研究会報告集 08-5. pp. 215-220. 2008.12.
- 才田いずみ「「新たな教育内容」の再評価」『大養協論集 2008』大学日本語教員養成課程研究協議会. pp.26-27. 2009.3.
- 高橋亜紀子，才田いずみ，小河原義朗，井口寧「遠隔日本語学習コースウェアの設計条件 システム・エンジニアのためのコースウェア開発に向けて」宮城教育大学紀要 44 巻別冊. pp.277-291. 2010.2.
- 鈴木淳子 「家族とジェンダー」潮村公弘・福島治(編)『社会心理学概説』北大路書房，pp.148-156. 2007 .
- SUZUKI Atsuko Introduction: micro-macro Dynamics. In Atsuko Suzuki (ed.), *Gender and career in Japan*. Melbourne, Victoria: Trans Pacific Press. pp.1-32. 2007.
- 鈴木淳子 「キャリア・ジェンダーと不平等」原 純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一(編)『社会階層と不平等』，放送大学教育振興会， pp.177-191 . 2008.
- 鈴木淳子 「男性性とメンタルヘルス」柏木恵子・高橋恵子(編)『日本の男性の心理学 もう一つのジェンダー問題』，有斐閣，pp.24-28 . 2008.
- 名嶋義直 「ノダの文法的意味の記述に向けた試み(その 1)-果たしてノダは『説明のモダリティ』か-」，『文化』第 71 巻 1・2 号，東北大学文学会，2007 .

- 名嶋義直 「母語話者による母語話者ロールプレイング発話の評価からわかること—口頭コミュニケーション文法へのアプローチ—」, 水谷修(監), 小林ミナ・日比谷純子(編), 『日本語教育の過去・現在・未来 第5巻 文法』, 凡人社, pp.98-124. 2009.
- 名嶋義直 「会話分析授業において受講生はどう学んだか—母語話者会話と学習者会話との対照を通して—」, 『2009年上海外国語大学日本学国際論壇記念論文集』, pp.463-467. 2009.
- 名嶋義直 「大学院における非母語話者日本語教師養成の実際—東北大学の場合—」, 『大学日本語教員養成課程研究協議会論集』第4号, 大学日本語教員養成課程研究協議会, pp.41-57. 2010.
- 名嶋義直 「学習者の多様化に対応する会話授業・作文授業の可能性—ジャーナルの横断的分析から—」, 『琉球大学留学生センター紀要 琉球大学 留学生教育』, pp.49-65. 2010.
- 名嶋義直・品田潤子・倉本文子・山森理恵 「コミュニケーションのための「話す」Web教材—『会話プロセスの可視化』と『学習プロセスの可視化』—」, 『2010 ICJLE 世界日本語教育大会論文集』, pp.11300-11309. 2010.7.
- 名嶋義直 「日本語教育におけるコミュニケーション教育の実際」, 『日本語学』2011年1月号, 明治書院, pp.62-77. 2010.12.
- 田中重人 「性別格差と平等政策 階層論の枠組による体系的批判」 嵩さやか・田中重人(編) 『ジェンダー法・政策研究叢書9 雇用・社会保障とジェンダー』 東北大学出版会, pp. 217-238. 2007.
- 田中重人 「ライフスタイル中立的な平等政策へ 両立政策は正当化できるか」 辻村みよ子・河上正二・水野紀子(編) 『ジェンダー法・政策研究叢書12 男女共同参画推進のための政策提言』 東北大学出版会, pp. 283-301, 2008.
- TANAKA Sigeto “Career, Family, and Economic Risks: A Quantitative Analysis of Gender Gap in Post-divorce Life”, 『2005年SSM調査シリーズ9 ライフコース・ライフスタイルから見た社会階層』2005年SSM調査研究会, pp. 21-33. 2008.
- 田中重人 「データ・リダクションのための汎用モジュールの開発 効率のよい職歴分析のために」 『2005年SSM調査シリーズ12 社会調査における測定と分析をめぐる諸問題』 2005年SSM調査研究会, pp. 21-45, 2008.
- 田中重人 「親と死別したとき: 子ども役割の喪失」 藤見純子/西野理子編 『現代

- 日本人の家族: NFRJ からみたその姿』有斐閣, pp. 93-102, 2009.
- 田中重人 「NFRJ08 標本抽出と調査実施」『家族社会学研究』21 卷 2 号, pp. 208-213, 2009.
- TANAKA Sigeto “The Family and Women's Economic Disadvantage: A Micro-macro Problem for Distributive Justice”, TSUJIMURA Miyoko and Osawa Mari eds., *Gender Equality in Multicultural Societies*, Tohoku University Press, pp. 215-234, 2010.
- 田中重人 「女性の経済的不利益と家族: 分配的正義におけるミクロ・マクロ問題」辻村みよ子・大沢真理 編『ジェンダー平等と多文化共生: 複合差別を超えて』東北大学出版会, pp. 99-118, 2010.
- TANAKA Sigeto “The Economic Situation of Those Who Have Experienced Divorce: The Gender Gap in Equivalent Household Income”, 田中重人・永井暁子 編『第 3 回家族についての全国調査 (NFRJ08) 第 2 次報告書 1: 家族と仕事』日本社会学会全国家族調査委員会, pp. 145-165, 2011.
- 呉 正培 「日本人イメージの形成に対する直接経験の影響 韓国人大学生の場合」『言語科学論集』12 号, 東北大学大学院文学研究科言語科学専攻, pp. 61-72, 2008 .
- 呉 正培・金 鉉哲「韓国語学習者の韓国イメージにみられる特徴 東北大学における学習者と非学習者の比較」(共同)『東北大学高等教育推進センター紀要』4 号, pp. 57-68, 2009 .
- 呉 正培 「韓国人大学生の日本人に対するイメージの内容分析」『東北亜文化研究』22, 東北アジア文化学会, pp. 311-326, 2010 .
- 呉 正培 「韓国人大学生の日本人イメージの形成メカニズム イメージ形成の因果モデルの提案」『日本學報』83, 韓国日本学会, pp 85-97, 2010 .
- 栗原通世・助川泰彦 「フィンランド人・韓国人・中国人日本語学習者による母音長短の範疇知覚化」(共同)『東北大学大学院文学研究科研究年報』57, 東北大学大学院文学研究科, P.25-P.43, 2008 .

1- 2 著書・編著

- 藤原雅憲・西村よしみ・堀恵子・内山潤・才田いずみ『大学における日本語教育の構築と展開: 大坪一夫教授古稀記念論文集』(共編著) ひつじ書房, 2007.2.
- Atsuko Suzuki (ed.). *Gender and career in Japan*. Melbourne, Victoria: Trans Pacific

- Press, 2007. (編著)
- 名嶋義直 『日本語研究叢書 19 ノダの意味・機能 関連性理論の観点から』(単著), くろしお出版, 2007.
- 嵩さやか・田中重人 『ジェンダー法・政策研究叢書 9 雇用・社会保障とジェンダー』(共編著), 東北大学出版会, 2007.
- 田中重人・永井暁子 編 『第3回家族についての全国調査 (NFRJ08) 第2次報告書 1: 家族と仕事』日本社会学会全国家族調査委員会, 2011.

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

- 才田いずみ 「(4) 教師と教育現場：特別寄稿 第7回日本語教育国際研究大会報告」 『日本語教育』139, 日本語教育学会, pp. 80-84, 2008.
- 鈴木淳子 「ジェンダー」岡村一成(編) 『応用心理学事典』, 丸善, pp.192-193, 2007.
- 鈴木淳子 「面接法」日本社会心理学会(編) 『社会心理学事典』, 丸善, 2009.
- 名嶋義直 「書評論文 庵功雄 著『日本語におけるテキストの結束性の研究』」, 『日本語の研究』第5巻2号, 日本語学会, pp.67-72. 2009.
- TANAKA Sigeto (translated by Stacey Jehlik)
“Housekeepers' Capacity as a Supply of Labor” (翻訳), *Japanese Economy*, 34(4), M. E. Sharpe, pp. 57-75, 2008.

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

- Izumi SAITA 招待講演 “Reconsidering communication materials in an advanced information society”. CLS 10th Anniversary Symposium, The Centre for Language Studies, University of Singapore. Dec.1-2, 2011.
- 才田いずみ 招待発表 「ウェブ利用の e-Learning 教材とその活用促進策」第15回オーストラリア日本研究学会大会, オーストラリア国立大学, 2007年7月2日.
- 才田いずみ・井口寧・高橋亜紀子・小河原義朗 「遠隔日本語学習とテレビ会議」(共同), CASTEL-J in Hawaii 2007, Kapiolani Community College. 2007年8月3日.
- 才田いずみ 招待発表 「日本語教育実習生についての実習生の受けとめ」日本語教育学世界大会 2008, 釜山外国語大学, 2008年7月12日.

- SAITA, Izumi, Takahasi, A., Ogawara, Y. and Inoguchi, Y. And Kurihara, M.
“Multimedia and Learner Awareness-raising in regard to Japanese Prosody” (共同).
CLaSIC2008 at National University of Singapore. 2008年12月5日
- 才田いずみ 基調講演 「日本語教育におけるコンピュータ利用の教材開発とその
動向」 「日本語教育と教材」国際シンポジウム, 於: 西安外国語大学長安キ
ャンパス, 2009年11月21日.
- 名嶋義直 「母語話者による母語話者ロールプレイング発話の評価からわかるこ
と」 (単独), 2008年日本語教育国際研究大会 ICJLE2008, 釜山外国語大学
(韓国釜山), 2008年7月11日.
- 小林ミナ・名嶋義直・品田潤子・宮崎聡子 「コミュニケーションのための『話
す』」 (共同), 2008年日本語教育国際研究大会 ICJLE2008, 釜山外国語大
学(韓国釜山), 2008年7月13日.
- 名嶋義直 「会話分析授業において受講生はどう学んだかー 母語話者会話と学習
者会話との対照を通してー」, 2009年上海日本学研究国際フォーラム, 上海
外国語大学(中国), 2009年6月13日.
- NAJIMA, Yoshinao “A Study of Sentence-Final Particles in Japanese: Interface between
Semantics, Syntax and Pragmatics.” 招待パネル Pragmatics of Japanese: Insights
and implications for Japanese language and education. 18th International Conference
on Pragmatics & Language Learning. Kobe University, 2010年7月18日.
- 名嶋義直・品田潤子・倉本文子・山森理恵 「コミュニケーションのための『話す』
Web教材ー『会話プロセスの可視化』と『学習プロセスの可視化』ー」, 2010
ICJLE 世界日本語教育大会. 台湾政治大学(台湾). 2010年7月31日.
- 名嶋義直 「学習者の日本語に見られる『顕在化しない誤用』」, 第二回中日韓朝
言語文化比較研究国際シンポジウム, 延辺大学(中国), 2011年8月23日.
- TANAKA Sigeto “Against Intra-Household Exploitation: Philosophy and Policy for
Equity within the Family in Japanese Context.” (単独), The 4th Annual East Asian
Social Policy Research Network (EASP) International Conference, 東京大学, 2007
年10月20日.
- TANAKA Sigeto “A Quantitative Analysis of the Economic Situation of Those Who
Have Undergone Divorce: The Gender Gap in Equivalent Household Income,
1998-2008, in Japan.” (単独), International Seminar, International Sociological
Association, Research Committee 06 (Committee on Family Research), 京都大学,
2011年9月12日.

呉 正培 「日本人大学生の韓国人に対するイメージの構造分析」, 韓国日本学会第 82 回学術大会, 漢陽女子大学, 2011 年 2 月 12 日.

(2) 国内学会

加藤由香里・才田いずみ 「上級日本語読解コンテンツの開発 専門教育との連携を志向する e ラーニング」(共同), 日本教育工学会第 23 回全国大会, 早稲田大学, 2007 年 9 月 24 日.

高橋亜紀子・才田いずみ・小河原義朗・井口寧 「システムエンジニアを対象とした遠隔日本語学習コースウェアの開発」(共同)日本教育工学会研究会, いわき明星大学, 2008 年 12 月 20 日.

才田いずみ 「日本語教育における ICT の活用」(単独)セミナー4 「初修(第二) 外国語と ICT - 日本語・中国語・韓国語の場合 - 」パネリスト, 2010 PC Conference, CIEC 研究大会. 東北大学, 2010 年 8 月 9 日.

才田いずみ 「実践研究の工夫と失敗」, パネル「実践研究を考える」, 日本語教育学会実践研究フォーラム, 横浜国立大学, 2011 年 7 月 31 日.

鈴木淳子 産業・組織心理学会部門別研究会(人事部門) 「働く人々とワーク・ライフ・バランス」 コメンテーター, 2007 年 7 月 21 日.

名嶋義直 「大学院における非母語話者日本語教師養成の実際- 東北大学の場合 - 」, 大学日本語教員養成課程研究協議会第 36 回大会シンポジウム, シンポジウム講師. 九州大学, 2009 年 10 月 9 日.

名嶋義直 「日本語教育から見た言語学概論」シンポジウム講師, 日本言語学会 2009 年秋季大会(第 139 回大会), 神戸大学, 2009 年 11 月 29 日.

田中重人 「離婚経験者にみる等価世帯所得の男女格差とその要因: 第 1 - 3 回全国家族調査データによる定量的分析」(単独), 第 20 回大会, 日本家族社会学会, 成城大学, 2010 年 9 月 12 日.

呉 正培 「日本人大学生の韓国人に対するイメージ 韓国語学習者と非学習者の比較」(単独), 第 31 回異文化間教育学会, 奈良教育大学, 2010 年 6 月 12 日.

栗原通世 「日本語学習者による母音長の知覚に関する基礎的研究 フィンランド語・中国語・韓国語話者を対象として」(単独), 第 28 回日本語教育方法研究会, 早稲田大学, 2007 年 3 月 17 日.

今野晃嗣・日高聡太・丸山俊・柴田寛・栗原通世・田中章浩・藤本茉莉・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「母語と非母語の物語聴取時における脳活動の NIRS

による測定 成人と幼児の比較」(共同), 第4回子ども学会議, 慶應義塾大学, 2007年9月15-16日.

日高聡太・柴田寛・栗原通世・田中章浩・藤本茉莉・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「幼児と成人を対象とした母語・非母語による物語聴取時におけるNIRSを用いた脳活動測定」(共同), 日本心理学会第71回大会, 東洋大学, 2007年9月18日.

(3) 研究会

才田いずみ コメンテーター 独立行政法人国立国語研究所公開研究発表会「『生活日本語』の学習をめぐる文化・言語の違いを超えるために」, 2008年1月26日.

才田いずみ コメンテーター 第21回神戸大学留学生センター・コロキウム「短期研修プログラムの意義と可能性を考える 大学の国際戦略と日本語教育の観点から」, 2008年2月9日.

才田いずみ シンポジウムパネリスト「『新たな教育内容』の再評価」, 大学日本語教員養成協議会シンポジウム「多文化共生社会における日本語教員養成課程の役割と可能性」, 首都大学東京, 2008年5月23日.

名嶋義直 「学習者の日本語に対する母語話者の評価について 日本語教育関係を学ぶ大学生の場合」(単独), 沖縄県大学等日本語教育研究会例会 2007年度第3回研究例会, 放送大学沖縄学習センター, 2007年3月8日.

名嶋義直 「自然な日本語を教えるために教師は何に着目すればいいか 日本語教育関係を学ぶ大学生による評価を手掛かりに」(単独), 日本語教育学会 平成19年度日本語教育学会第3回研究集会, 岐阜大学, 2007年6月18日.

名嶋義直 「学習者の発話には何が欠けているか ロールプレイ発話の会話分析」(単独), 第5回日本語教育研究集会, 名古屋大学, 2007年8月6日.

名嶋義直 「日本語母語話者による日本語母語話者会話の評価からわかること」(単独), 沖縄県大学等日本語教育研究会例会 2007年度第3回研究例会, 放送大学沖縄学習センター, 2008年3月1日.

名嶋義直 「母語話者による母語話者ロールプレイング発話の評価からわかること 『意味』と『流れ』に関する肯定的コメントを中心に」(単独), 第6回日本語教育研究集会, 名古屋大学, 2008年8月4日.

名嶋義直 招待発表「ノダの意味・機能再考—その文法論的意味と語用論的意味

- 」(単独),第15回中日理論言語学研究会,同志社大学 大阪サテライト, 2008年10月5日
- 名嶋義直 「学習者の多様化に対応する会話授業・作文授業の可能性- ジャーナルの横断的分析から- 」(単独),2008年度沖縄県日本語教育研究会例会第3回例会,放送大学沖縄学習センター,2009年3月7日.
- 名嶋義直 「シラバスが生み出す誤用」(単独),第7回日本語教育研究会,名古屋大学,2009年8月3日.
- 名嶋義直 「終助詞ヨとネに関する語用論的考察- 日本語教育への応用に向けて- 」(単独),2009年度沖縄県日本語教育研究会例会第3回例会,琉球大学,2010年3月9日.
- 名嶋義直 「終助詞に関する一考察- 意味論・構文論・語用論のインターフェース- 」(単独),第8回日本語教育研究集会,名古屋大学,2010年8月9日.
- 名嶋義直 「コミュニケーションの観点から見た『顕在化しない誤用』」(単独),沖縄県日本語教育研究会 2010年度第3回研究発表会,琉球大学),2011年3月8日.
- 名嶋義直 「言葉の持つ『限界と可能性』- 東日本大震災が見せた言語行為の諸相- 」(単独),第9回日本語教育研究集会,名古屋大学,2011年8月8日.
- TANAKA Sigeto “Family Creating Inequality: A Quantitative Analysis of Gender Gap in Post-Divorce Life” (単独),GCOE 国際セミナー「多文化共生社会のジェンダー平等: グローバリゼーション下のジェンダー・多様性・共生」(東北大学法学研究科グローバルCOEプログラム)2009年8月4日.
- 田中重人 「分配的正義におけるマクロとミクロ: 女性の経済的不利益を題材に」(単独),東北大学法学研究科グローバルCOEプログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」第11回月例研究会 2009年9月9日.
- TANAKA Sigeto “The Family, Marriage, and Gender Inequality: Quantitative Analysis of Economic Situation after Divorce” (単独),東北大学法学研究科グローバルCOEプログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」第23回月例研究会 2011年2月16日.
- TANAKA Sigeto “The Economic Situation of Those Who Have Experienced Divorce: The Gender Gap in Equivalent Household Income.”(単独),NFRJ08 データ学会内共同利用 (NFRJ08研究会) 研究報告会 2011,日本女子大学,2011年7月24日.

2 教員の受賞歴(2007~2011年度)

なし

教員による競争的資金獲得（2007～2011年度）

（1）科学研究費補助金

2007年度

田中重人(研究代表者):若手研究(B)2005～2007年度 課題番号:17710205 「カップル単位意思決定の下でのジェンダー平等」600,000円(2007年度分)

2007～2008年度

才田いずみ(研究代表者):基盤研究(B)2006～2008年度 課題番号:18320079 「社会的・文化的要素を意識した多元・多層日本語学習支援システムの研究」15,300,000円(3年間総額)

2010～2011年度

呉 正培(研究代表者):若手研究(B)2010～2011年度 課題番号:22720209 「韓日の相手国民に対するイメージを測定する尺度の開発」1,640,000円(2年間総額)

2010～2012年度

才田いずみ(研究代表者):基盤研究(C)2010～2012年度 課題番号:22520516 「位相を意識した日本語使用を促す学習支援システムの研究」3,100,000円(3年間総額)

2011年度～

名嶋義直(研究代表者):挑戦的萌芽研究2011～2012年度 課題番号:23652110 「日本語学習者の心的文法に関する基礎的研究」1,040,000円(2年間総額)

田中重人(研究代表者):基盤研究(B)2011～2014年度 課題番号:23330153 「社会学文献情報データベースを基盤とした研究者コミュニティの再創造」4,810,000円(2011年度分)

（2）その他

教員による社会貢献（2007～2011年度）

（1）政府・地方公共団体関係機関等の委員

才田いずみ 文部科学省独立行政法人評価委員会臨時委員 2004～2010年度

才田いずみ 独立行政法人日本学術振興会 大学院教育改革支援プログラム委員会分野別審査部会(書面審査委員) 2007～2008年度

才田いずみ 独立行政法人日本学術振興会 組織的な大学院教育改革推進プログラム委員会分野別審査部会委員（書面審査委員）2009年度
才田いずみ 独立行政法人日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員 2008年8月～2010年7月
才田いずみ 独立行政法人日本学術振興会 国際事業委員会書面審査員 2008年8月～2010年7月31日
才田いずみ 日本学術会議連携会員 2006年8月～現在
才田いずみ 財団法人日本語教育振興協会 審査委員会専門委員 2004年度～現在
才田いずみ 財団法人仙台国際交流協会評議員 2004年度～2008年5月
才田いずみ 財団法人東北大学研究教育振興財団 財務委員会委員 2004～2009年度

（2）公開講座等の講師

才田いずみ 日本語ボランティア育成講座 講師 財団法人仙台国際交流協会 2004～2010年度
才田いずみ 研修会講師「個人対応とグループ学習：柔軟で役に立つ学習支援を考えよう」にほんごの会くれよん主催，目黒区国際交流協会助成事業 2009年度日本語ボランティアのための3回講座（第1回）2009年7月30日
才田いずみ 「“あたし”と“おれ”」第4期 齋理蔵の講座 第4回 講師 2011年9月3日．
鈴木淳子 講演会 「調停場面におけるノンバーバル・コミュニケーション・スキル 説得力ある面接者をめざして」仙台家庭裁判所 2007年1月24日
鈴木淳子 放送大学 「社会階層と不平等」第12回講義：キャリア・ジェンダーと不平等（講師） 2007年9月4日（収録）
名嶋義直 特別授業 福島県立磐城高等学校 2007年10月23日
名嶋義直 研修会 凡人社日本語サロン研修会「教師力♡文法力」（全体討論司会進行，コメンテーター），東京国際大学早稲田サテライト，2008年8月17日
名嶋義直 公開セミナー講師 「外国人の日本語から日本語を考える」，東北大学大学院文学研究科 市民のための公開セミナー「第8期有備館講座」，2009年6月20日．
名嶋義直 公開講義「日本語の会話について考える」，東北大学オープンキャンパス，2009年7月30日．

名嶋義直 ワークショップ講師 「会話教育再考」，東京外国語大学留学生日本語教育センター，2009年10月29日。

名嶋義直 シンポジウム講師，（財）仙台市国際交流協会主催『日本語ボランティア研修会』，「『話す』教育について考える－何を教える？－」，仙台国際センター，2010年2月20日。

名嶋義直 特別授業講師 山形県立山形東高等学校 2011年10月4日

田中重人 「ワーキング・ウィメンズ・ネットワークを形成した運動家たち」，東北大学文学研究科 市民のための公開セミナー「第3期齋理蔵の講座」2010年8月7日。

呉 正培 研修会講師 「日本語学習者の日本人に対するイメージ」，日本語ティールーム開催，仙台八木山市民センター，2010年6月25日。

呉 正培 シンポジウムパネリスト「日本での経験から考えてみた多文化共生」，多文化共生セミナー2010「韓国の取り組みから考えよう」，仙台国際センター，2010年9月9日。

(3) NPO・NGO 法人・民間企業との協力関係等

才田いずみ NPO 法人 日本語 e-Learning センター理事長 2005年度～現在

才田いずみ NPO 法人 科学教育学際センター理事 2011年度

名嶋義直 仙台市・名取市・南三陸町・宮古市災害ボランティアセンター登録の災害ボランティア 2011年3月～現在

名嶋義直 あしなが育英会ファシリテーターボランティア 2011年6月～現在

教員による学会役員等の引き受け状況（2007～2011年度）

才田いずみ

日本語教育方法研究会会長 2006年4月～2010年3月

日本語教育方法研究会運営委員 2010年4月～2011年3月

日本語教育学会常任理事 2005年6月～2011年5月

日本語教育学会大会委員（副委員長）2005年7月～2009年6月

CIEC PCカンファレンス2010 実行委員 2010年度

小出記念日本語教育研究会 編集委員 2010年9月～現在

鈴木淳子

東北大学 21世紀 COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」事業推進担当者 2003～2007年度

東北大学 21 世紀 COE プログラム 運営幹事 2006～2007 年度
日本社会心理学会「社会心理学研究」編集委員 2005～2008 年度
日本社会心理学会 学会賞選考委員・選考小委員会（出版賞）委員 2007 年 6
月～9 月
産業・組織心理学会 常任理事 2007～2008 年度
産業・組織心理学会 「産業・組織心理学研究」編集委員 2007～2008 年度
日本理論心理学会第 53 回 大会委員長 2007 年 11 月 17～18 日
東北大学グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界
の展開」運営幹事・マイノリティ部門長 2008 年 4 月～2009 年 3 月

名嶋義直

日本語教育方法研究会事務局長 2006 年度～2010 年 3 月
日本語教育方法研究会 運営委員 2010 年度
日本語文法学会 学会誌委員 2007 年度～現在
名古屋大学日本語教育研究集会 実行委員会 2003 年度～現在
小出記念日本語教育研究会 研究委員 2008 年度～2010 年 9 月
日本語教育学会 査読協力者 2008 年度～現在
日本語用論学会 査読協力者 2009 年度
2009 年上海日本学研究国際フォーラム 分科会座長 2009 年 6 月 13 日
日本語用論学会 運営委員 2010 年度～現在
第二言語習得研究会 大会副委員長 2010 年度～現在
日本言語学会 2010 年度秋季大会 実行委員
2010 ICJLE 世界日本語教育大会パネルセッションの司会 2010.8.1
2012 年日本語教育国際研究大会（ICJLE2012）実行委員 2010 年～2012 年

田中重人

日本家族社会学会全国家族調査委員会委員 2004 年～現在
日本社会学会データベース委員会委員 2003 年～現在
東北大学 21 世紀 COE プログラム「男女共同参画社会の法と政策」事業推進
担当者 2003～2007 年度
東北大学グローバル COE プログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文
化共生」事業推進担当者 2008 年度～現在

教員の教育活動

（1）学内授業担当（2011 年度）

1 大学院授業担当

才田いずみ

- 1 学期 日本語教育論研究演習 「教室活動におけるインプットとアウトプット」
- 2 学期 日本語教育論講読「第二言語習得研究と日本語教育」
- 通年 課題研究（専攻分野全教員と共同）

名嶋義直

- 1 学期 日本語教育論実習 「コースデザインの基礎」
- 2 学期 日本語教育論実習 「日本語コースの評価と改善」
- 1 学期 日本語教育論特論 「誤用から考える」
- 2 学期 日本語教育論研究演習 「記述文法の批判的検討」
- 通年 課題研究（専攻分野全教員と共同）

田中重人

- 2 学期 比較現代日本論講読 「現代日本論論文講読」
- 1 学期 比較現代日本論研究演習 「統計分析入門」
- 2 学期 比較現代日本論研究演習 「質問紙調査の理論と実践」
- 2 学期 比較現代日本論研究演習 「実践的統計分析法」
- 通年 課題研究（専攻分野全教員と共同）

2 学部授業担当

才田いずみ

- 3 セメスター 日本語教育学基礎講読「外国語学習と習得」
- 3 セメスター 日本語教育学概論「日本語と日本語教育」
- 4 セメスター 日本語教育学概論「日本語教育の基礎」
- 5 セメスター 日本語教育学演習「話す活動」
- 5 セメスター 日本語教育学実習「日本語コース運営の基礎」
- 6 セメスター 日本語教育学実習「日本語コース運営の実際」

名嶋義直

- 4 セメスター 日本語教育学基礎講読「日本語を文法的に考えるための基礎を学ぶ」
- 5 セメスター 日本語教育学講読「日本語を文法的に考える」
- 5 セメスター 日本語教育学各論「誤用から考える」

田中重人

- 1 セメスター 人文社会総論（分担）「日本語教育学」
- 3 セメスター 現代日本論概論「現代日本における家族」
- 4 セメスター 現代日本論概論「現代日本における職業」
- 3 セメスター 現代日本論基礎講読「論文作成の基礎」
- 4 セメスター 現代日本論基礎講読「現代日本文化に関する論文講読」
- 5 セメスター 現代日本論演習「統計分析の基礎」
- 5 セメスター 現代日本論演習「質問紙法の基礎」
- 6 セメスター 現代日本論演習「応用統計分析」

3 共通科目・全学科目授業担当

才田いずみ

- 1 セメスター 全学教育科目 言語学「日本語はどう使われているか」

名嶋義直

- 1 セメスター 全学教育科目 基礎ゼミ「日本語について理解を深める」

(2) 他大学への出講(2007~2011年度)

才田いずみ

- 宮城学院女子大学大学院・人文科学研究科(通年)(2003~2011年度)
- 桜美林大学大学院・国際学研究科(集中講義)(2003~2008年度)
- 桜美林大学大学院・言語教育研究科(集中講義)(2009~2010年度)
- 岩手大学・教育学部(集中講義)(2003~2011年度)

名嶋義直

- 金城学院大学(集中講義)(2006~2008年度)
- 金城学院大学大学院文学研究科(集中講義)(2009年度)
- 金城学院大学(集中講義)(2010~2011年度)
- 仙台白百合女子大学(通年)(2008~2011年度)

田中重人

- 東北学院大学・教養学部(通年)(2009~2010年度)

呉 正培

- 宮城教育大学(通年)(2008~2011年度)
- 宮城学院女子大学(通年)(2011年度)

栗原通世

- 宮城教育大学(通年)(2004~2007年度)